

公益社団法人日本眼科医会 定款施行細則

第 1 章	全国会長会議
	(全国会長会議)
第 1 条	本会と各都道府県眼科医会の連携を緊密にし、本会の会務を円滑に遂行するため、理事会は、全国会長会議を開くことができる。 2 全国会長会議は、各都道府県眼科医会の会長をもって構成する。ただし、やむを得ない理由のため出席できないときは、代理人の出席を認める。 3 全国会長会議は、眼科の諸問題を検討し、必要に応じて、理事会に対し参考意見を提出することができる。 4 理事及び監事は、全国会長会議に出席して意見を述べることができる。 5 代議員会の議長及び副議長は、全国会長会議に出席して意見を述べるることができる。
第 2 章	会員
第 2 条	(正会員) 定款第 8 条第 2 項に規定する正会員は、主たる業務地(業務地のない場合には住所地)の所在する都道府県眼科医会(以下「所管眼科医会」という。)に所属するものとする。
第 3 条	(入会) 本会に入会しようとする者は、別に定める入会申込書に当該年度の会費を添えて、所管眼科医会を経由して、本会に提出しなければならない。 2 理事会は、第 13 条に定めるところにより、入会の承認又は拒否若しくは保留を決定し、その結果をすみやかに本人に通知しなければならない。その際、入会の拒否又は保留のときは、理由を付するものとする。 3 入会を拒否又は保留された者は、拒否又は保留の理由について異議がある場合は、理事会に異議を申し立てることができる。 4 異議の申し立てを受理した理事会は、裁定委員会にその審議を付託することができる。 5 本会に入会した者は、同時に所管眼科医会に入会するものとする。 6 本会を除名された者で、再入会を希望する者は、第 1 項の規定に準じて、新たに入会しようとする者と同様の手続きを行うものとする。
第 4 条	(退会) 退会しようとする者は、別に定める退会届を、所管眼科医会を経由して、理事会に提出しなければならない。
第 5 条	(会費及び負担金) 定款第 10 条に定める会費及び負担金については、正会員又は準会員(以下「会員」という。)を A 会員、B 会員及び C 会員に分ける。 A 会員 病院若しくは診療所の管理者又はこれに準ずる者 B 会員 A 会員又は C 会員以外の会員であって所管眼科医会の会長が申請した者(所管眼科医会の会長の申請のないものは、A 会員として取り扱う。) C 会員 医師臨床研修制度開始年度から 6 年以内のものであって、所管眼科医会の会長が申請した者 2 前項に定める各会員の会費及び負担金の額については、代議員会で定める。 3 会費収入については、その 50%以上を公益目的事業に充てるものとする。
第 6 条	(納入手続き) 会員は、定款第 7 条に定める毎事業年度当初における会員の種別に応じて、当該年度の会費及び負担金の額を負担するものとし、納入は原則として自動引落としによるものとする。ただし、新規入会者の納入手続きは初年度に限り第 3 条第 1 項による。 2 前項の自動引落としにより納入し難い者については、理事会は、他の方法で納入することを許可することができる。 3 同一事業年度の途中において、会員の種別に変更を生じ、既に納入した会費及び負担金の額に過不足が生じて、追徴及び返還は行わない。

公益社団法人日本眼科医会 定款施行細則

- (会費及び負担金の減免)
- 第7条 本会会員である期間が事業年度末において通算十年以上となった者で、かつ、年齢が83歳を超えた会員については、理事会は、所管眼科医会の会長からの申請に基づき、その者に係る会費及び負担金を免除することができる。
- 2 本会会員である期間が事業年度末において通算五年以上となった者が、長期にわたって傷病により診療に従事できないときは、理事会は、所管眼科医会の会長からの申請に基づき、二年以上傷病により長期休養のときは会費を半額に減額、五年以上傷病により長期休養のときは、会費を全額免除することができる。
- 3 激甚災害指定など特別の事情がある場合は、理事会は、その者に係る会費及び負担金を減額あるいは免除することができる。
- (会費及び負担金の滞納)
- 第8条 理事会は、会員が一年以上会費又は負担金を納入しないときは、これを納入するまでの間当該会員について、定款第12条、第17条第4項ならびに第33条第6項に規定する権利以外の会員としての権利を停止することができる。
- (会員原簿の作成等)
- 第9条 事務局は、毎年12月31日現在における会員原簿を作成するものとする。
- (変更手続き)
- 第10条 会員は、氏名、住所、業務地等及び第5条に定める会員の種別に変更を生じたときは、別に定める変更届を、所管眼科医会を経由して、すみやかに本会に提出しなければならない。
- 2 会員は、所管眼科医会の区域外に、主たる業務地を変更したときは、すみやかに別に定める移動(転入)届を、変更後の所管眼科医会に提出しなければならない。
- 3 第1項に定める変更届を受理した所管眼科医会の会長は、直ちに変更届を本会に提出しなければならない。又、第2項に定める移動(転入)届を受理した所管眼科医会の会長は、直ちに転入処置をなし、すみやかに本会並びに転出所管眼科医会に提出しなければならない。
- ただし、変更・移動(転入)の申請を受けた所管眼科医会の会長は、第13条に抵触する疑いがあるときは、理事会に異議を申し立てるとともに、変更・移動(転入)届を保留するものとする。
- 4 前項の規定により所管眼科医会への所属が認められない正会員は、準会員に移行するものとする。ただし、所管眼科医会の会長により前項の保留の解除が申請された場合、当該準会員は正会員に移行するものとする。
- 5 第3項の保留に対する理事会の決定があった場合は、当該所管眼科医会はこれに従うものとする。
- 6 第1項及び第2項に該当する会員が手続きを怠った場合は、当該所管眼科医会の会長は該当する会員に対しすみやかに手続きを行うよう勧告するものとする。
- 7 第1項及び第2項に該当する会員が、前項の所管眼科医会の会長の勧告に従わないときは、その旨を理事会に報告するものとする。報告の書式は変更届又は移動(転入)届によるものとする。
- 8 前項による報告を受けた理事会は、その取り扱いを裁定委員会に付託することができる。
- (電磁的手続き)
- 第11条 会員は、前条の手続きを電磁的方法によって行うことができる。
- (複数施設の管理及び勤務の届出)
- 第12条 会員が二か所以上の業務地で業務に従事するときは、従たる業務地については、当該業務地を所管する都道府県眼科医会に、別に定める複数施設従事届を提出しなければならない。
- 2 従たる業務地を変更したときも前項と同様とする。
- 3 会員は、従たる業務地が所管眼科医会と異なるときは、所管眼科医会の活動を妨げない限りにおいて、従たる業務地を所管する眼科医会の活動に協力しなければならない。
- 4 第1項に該当する会員が同項に規定する手続きを怠るときは、前条第5項、第6項、第7項に準じて処理するものとする。
- (入会・変更・移動承認取扱基準)
- 第13条 理事会が入会・変更・移動希望者に承認を与える場合は、当該希望者が公益社団法人会員としての適性に欠ける行跡がなかったか、本会の目的に著しく抵触する行為がなかったかどうかにつき、推薦した所管眼科医会の会長から事情を確認するとともに、次にかかげる項目の内、(ア)、(イ)、又は(エ)に該当す

公益社団法人日本眼科医会 定款施行細則

る場合においては、入会・変更・移動を拒否、又は一時保留とし、(ウ)については、それぞれの項目に従って決定する。

- (ア) 入会・変更・移動希望時の直近過去三年以内に下記事項に該当する行為などのあった者
 - 1) 地域救急医療に参加を拒否した者、学校医になることを拒否した者、その他地域医療に協力しなかった者。ただし、止むを得ない理由があると所管眼科医会の会長が判断したものを除く。
 - 2) いわゆる名義貸しを行い営利企業の利益追求に加担したことが明らかな者、医事に関する不正行為があり行政処分を受けた者、その他医の倫理に背く行為のあった者
- (イ) 日本医師会への入会に同意しない者
 - 1) A 会員は入会するものとする。
 - 2) B、C 会員は入会するのが望ましい。
- (ウ) 眼科臨床経験
 - 1) A 会員は眼科臨床経験四年以上を必要とする。
 - 2) 病院、又は診療所の管理者で眼科臨床経験が四年未満の者については、所管眼科医会の意見を聞いたうえで理事会が決定する。
- (エ) 以上のほか、理事会が不相当と認めたもの。

第 3 章	役員
第 14 条	(会務分担) 会長は、会務の円滑な遂行を図るため、会務を区分し、理事及び常任理事の分担をきめる。
第 15 条	(役員定数) 定款第 32 条に規定する副会長、常任理事、理事及び監事並びに定款第 46 条に規定する裁定委員の選任にあたり、当該代議員会で選任される数(以下本施行細則において「定数」という。)は、これに先立つ理事会で定める。
第 16 条	(役員選挙管理委員会の設置) 役員を選出に関する業務を適正に行うため、本会に役員選挙管理委員会(以下「役員選管」という。)を設置する。 2 役員選管の運営に関して必要な事項は、本施行細則に定めるほか、理事会の決議により定める。
第 17 条	(役員選挙) 役員選任決議は、定時又は臨時の代議員会において、行うものとする。 2 役員選管は、当該代議員会の 28 日前までに、役員選任決議の公示を行い、立候補者届出の受付を開始しなければならない。 3 役員選任決議に先立ち、理事会決議に基づき代議員の投票による選挙を行うことができる。 4 前項の選挙は、第 18 条第 1 項に定める立候補期限の 5 日後の日(事務局職員就業規則第 14 条に定める休日(以下、「休日」という。)に当たる場合はその直近の日)の正午から、立候補期限の 20 日後の日(休日に当たる場合はその直近の日)の正午までを投票期間とし、投票用紙(電子媒体を利用したものを含む)を配布及び回収し、当該代議員会において選挙の集計結果を公表する。 5 前項の集計結果に基づき、会長たる理事、副会長たる理事、常任理事たる理事、その他の理事及び監事は、それぞれの選出区分ごと一括して承認決議を得る方法によって選任することができる。
第 18 条	(立候補の届出及び推薦) 役員選任決議に立候補する者(以下「候補者」という。)は、選任決議の行われる当該代議員会期日の 21 日前の日(休日に当たる場合はその直近の日)の正午(以下「立候補期限」という。)までに、役員選管に立候補の届出を別添の書式による書面又はこれに準じた所定の電磁的方法で提出しなければならない。同時刻を過ぎた立候補の届出は効力を有しない。 2 候補者は、立候補の届出に際し、正会員 3 名以内の推薦を得ることができる。 3 会員を候補者に推薦しようとするときは、第 1 項の期間内に推薦届、被推薦者の承諾書を役員選管に提出しなければならない。
第 19 条	(候補者一覧表の作成及び通知) 役員選管は、立候補期限の 3 日後(休日に当たる場合はその直近の日)の正午までに、候補者氏名の順

公益社団法人日本眼科医会 定款施行細則

位を届出順に掲載した候補者一覧表を作成する。

2 役員選管は、前項の候補者一覧表を議長及び代議員に立候補期限の4日後(休日に当たる場合はその直近の日)の正午までに通知しなければならない。

3 前項の通知は、本会ホームページに掲載して行うものとする。

(マニフェスト)

第20条 候補者は、役員選管に対し、立候補期限までに申請することにより、本会ホームページに役員選任に関する抱負等を記述したマニフェスト(別添の書式による)を掲載することができる。

2 役員選管は、前項の申請があった場合は、前条の候補者一覧表の通知のときから、その記載の順序によって本会ホームページに掲載する。

3 第1項のマニフェストには、他人の名誉を傷つけ、善良な風俗を害し、その他品位を損なう文言を記載してはならず、虚偽の事項を記載し又は事実を歪曲して記載する等表現の自由を濫用して選挙の公正を害してはならない。

(立候補辞退及び推薦の取り下げ)

第21条 候補者は、第17条第5項の承認決議までに、文書で役員選管に届出て、その候補者であることを辞退することができる。

2 推薦届出者は前項の例により、その推薦届を取り下げることができる。

(推薦届等の様式)

第22条 推薦届、承諾書、立候補辞退届及び推薦取下届の様式は別添の書式による。

(投票用紙)

第23条 投票用紙(電子媒体を利用したものを含む)の様式は、役員選管がこれを定める。

(電磁的方法による投票)

第24条 第17条第4項に定める投票は、電磁的方法によって行うことができる。役員に関する選挙は、代議員の投票によって決定する。

(投票の方法)

第25条 投票は無記名とし、以下の方法とする。

(1) 第17条の定める選出区分のうち、選出区分の定数が1の投票は、単記投票とする。

(2) 第17条の定める選出区分のうち、選出区分の定数が2以上の投票は、定数以下の人数の投票を行う不完全連記投票とする。

2 多数の票を得た者を当選人とする。

3 投票同数のときは、議長が抽選によってこれを定める。

4 会長の選挙においては、有効投票の3分の1以上の得票がなければ無効とし、有効投票最多数を得た者2人を候補として、再選挙を行う。

(信任投票)

第26条 第18条による届出のあった候補者が、その選挙の定数を超えないときは、代議員による信任投票を行う。

2 前項の投票は、代議員の過半数が行わなければならない。

3 候補者が定数に満たないときは、代議員会の決議によって補欠選挙を行わなければならない。

(無効投票)

第27条 下記の投票は、これを無効とする。

(1) 役員選管の定める投票用紙(電子媒体を利用したものを含む)を用いないもの。

(2) 候補者でない者の氏名を記載したもの。

(3) 候補者の氏名を確認しがたいもの。

(4) 連記投票の場合において、連記すべき定数を超えた員数を記載したもの。

(5) その他役員選管が無効と判断したもの。

(開票及び結果の報告)

第28条 議長は、選挙の集計結果を確認するため、代議員中より3名の選挙開票立合人を指名しなければならない。

2 役員選管は、開票に関する事務を掌理し、選挙開票立合人の立ち合いの上、選挙の集計結果を確認し、前条の疑義がある場合は、役員選管の判断結果を選挙開票立合人に開示しなければならない。

公益社団法人日本眼科医会 定款施行細則

3 役員選管は、選挙の集計結果を直ちに議長に報告しなければならない。

(当選証書の交付)

第 29 条 会長は、当選人に当選証書を交付する。

(補欠選挙)

第 30 条 役員補欠選挙については、第 17 条から第 29 条までの規定を準用する。

(裁定委員選挙)

第 31 条 裁定委員の選挙は、不完全連記無記名投票とする。

2 選挙の手続きに関しては、役員選挙に関する規定を準用する。

第 4 章 代議員及び予備代議員

(選出)

第 32 条 定款第 17 条の規定に基づく代議員及び予備代議員の選出に必要な事項は、理事会の決議により、別に定める。

2 代議員及び予備代議員は、その任期が開始するべき年の 1 月 1 日以降 3 月末日までに選出され、4 月 1 日より就任するものとする。

(定数)

第 33 条 代議員及び予備代議員の定数は、その選挙の前年の 12 月 31 日現在で作成した会員原簿記載の正会員数に基づき算出するものとし、任期中はこれを変更しない。

(正副議長選挙)

第 34 条 定款第 27 条に規定する議長及び副議長の互選は、第 32 条の代議員選出から 5 日後の日(休日に当たる場合はその直近の日)までに公示を行い、立候補者届出の受付を開始しなければならない。

2 正副議長選挙に必要な事項は、理事会の決議により、別に定める。

第 5 章 代議員会

(代議員会招集の通知)

第 35 条 定款第 26 条第 4 項に規定する告知の方法は、郵送又は電磁的方法によるものとする。

第 36 条 代議員は、会議中に出席したときは、その旨を議長に申し出るものとし、会議中に退席しようとするときは、議長の許可を受けなければならない。

(代議員会議事)

第 37 条 代議員会の開会、閉会、議案の分合及び議題の順序変更は、会長と協議の上、議長が定める。

第 38 条 議長は、案件を議題とするときはその旨を宣告する。

第 39 条 動議は、他に 1 人以上の賛成者がなければこれを議題としない。

第 40 条 議題となった動議を撤回し又は訂正しようとするときは、議長の許可を受けなければならない。

2 動議で否決されたものは、その会期中は再びこれを提出することはできない。

第 41 条 代議員が発言しようとするときは、議長と呼び、席次番号又は氏名を告げ、議長の許可を受けなければならない。

第 42 条 理事又は監事が発言を求めたときは、議長はこれを許可しなければならない。ただし、代議員の発言中は、この限りではない。

第 43 条 発言は、すべて議題の範囲をこえてはならない。

公益社団法人日本眼科医会 定款施行細則

2 議長は、発言が前項の規定に反すると認めるときは、注意をうながし、なお従わないときは発言を禁止することができる。

- 第 44 条 質疑又は討論が終ったときは、終結を宣告する。
2 討論が終らない場合でも、議長において既に論議が終ったと認めたときは、討論の終結を宣告することができる。
3 発言が尽きないときは、代議員から質疑又は討論終結の動議を提出することができる。
4 質疑又は討論終結の動議が可決されたときは、議長は討議を用いずに直ちにその表決を採らなければならない。
- 第 45 条 議長が討論しようとするときは、議案朗読後代議員席につき、代理者を議長席につかせなければならない。
- 第 46 条 議長が採決しようとするときは、その議題及び採決すべき旨を宣告しなければならない。
- 第 47 条 議長が採決を宣告した後は、何人もその議題について発言することができない。
- 第 48 条 採決は、原則として起立又は挙手、又は電子媒体を利用したものとし、議長が適宜そのいずれによるかを定める。
2 議長が起立又は挙手の数を認定しがたいとき又は議長の宣告に対して出席代議員の 4 分の 1 以上から異義の申し立てがあつたときは、投票で採決しなければならない。
- (常任委員会)
- 第 49 条 議長は、代議員会に常任委員会を置くことができる。
2 常任委員会の組織及び運営に関し必要な事項は、別に定める。
- (特別委員会)
- 第 50 条 議長は、議案の調査又は文案の起草その他必要があると認めるときは、代議員会に諮り、特別委員会を設けてこれに付託することができる。
2 特別委員会は、付託された案件が代議員会で審議されている間存在する。
- 第 51 条 特別委員は、議長がこれを指名し、又は代議員にこれを選挙させることができる。
- 第 52 条 特別委員会において委員長 1 人を互選する。
2 委員長は、特別委員会を招集する。ただし、初めて委員長の互選を行うときは議長が招集する。
3 委員長は、本会議中においても、議長の許可を受けて特別委員会を招集することができる。
4 委員長は、特別委員会の議事を整理して、その経過及び結果を会議に報告しなければならない。
- 第 53 条 特別委員会の審議は、会議の付託した案件以外にわたることができない。
- 第 54 条 特別委員会は、委員の半数以上の出席を要し、その決議は出席者の過半数をもって行い、可否同数のときは委員長の決するところによる。
- 第 55 条 特別委員会に付託された案件の発議者又は動議の提案者は、委員長の許可を得て、特別委員会に出席して意見を述べることができる。ただし、表決に加わることはできない。
- 第 56 条 特別委員会に付託された案件で、会期中に審議を終了しないときは、会期終了後においても審議を継続して、その結果を次の代議員会に報告しなければならない。
- (会員の傍聴)

公益社団法人日本眼科医会 定款施行細則

第 57 条 会員が会議を傍聴しようとするときは、議長の許可を受けるものとする。

第 6 章 資産及び会計

(法人会計の区分)

第 58 条 本会の法人会計の経理は、一般会計及び特別会計に区分する。

2 会費、負担金、寄附金及びその他の収入金に関する出納を一般会計とする。

3 特別の目的をもって徴収した会費、負担金、寄附金及びその他の収入金に関する出納を特別会計とする。

(経理)

第 59 条 本会の経理に関する事務は、「公益法人会計基準」により処理する。

(借入金)

第 60 条 会長は、出納上必要あるときは、代議員会の決議を経て一時借入金をすることができる。

2 一時借入金は、当該年度の歳入でこれを償還する。

(継続費の繰越し)

第 61 条 数年を期して行う事業で、継続費として総額を定めたものは、各年度の支出総額を事業完成年度まで逐次繰り越して使用することができる。

第 7 章 表彰

(表彰)

第 62 条 会長は、本会のために著しい功績をあげた者に対して、別に定めるところにより、表彰することができる。

第 8 章 会誌

(会誌)

第 63 条 本会は、本会の目的に関する事業、研究、調査等を発表するため、毎月 1 回定期的に会誌を発行するものとし、その名称は「日本の眼科」とする。

(会誌の配布)

第 64 条 前条に規定する「日本の眼科」は、本会会員及び購読の申し込みのあった者に対して配布するものとし、その購読料(定価)は、理事会で定める。

2 会員の購読料は、会費の中に包含して徴収する。

3 会員の資格を喪失したときは、特に申し出のない限り、「日本の眼科」の配布を停止する。

第 9 章 雑則

(雑則)

第 65 条 本会の公示は、本会ホームページに掲載する方法による。

第 66 条 入会申込書等の様式その他必要な事項は、理事会の定めるところによる。

附則

1 この施行細則は、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律及び公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の施行に伴う関連法律の整備等に関する法律第 106 条第 1 項に定める公益法人の設立の登記の日から施行する。

2 この施行細則は、平成 25 年 6 月 23 日より改正施行する。

3 この施行細則は、平成 27 年 4 月 4 日より改正施行する。

4 この施行細則は、平成 28 年 4 月 3 日より改正施行する。ただし、施行日において、すでに年齢が 80 歳を超え申請されている者については従前の例による。

5 この施行細則は、令和 2 年 6 月 28 日より改正施行する。

6 この施行細則は、令和 2 年 12 月 12 日より改正施行する。

7 この施行細則は、令和 6 年 4 月 6 日より改正施行する。

公益社団法人日本眼科医会 定款施行細則

8 この施行細則は、令和6年12月14日より改正施行する。

別添1

役員立候補届

届出日：西暦 年 月 日

公益社団法人日本眼科医会 役員選挙管理委員会 御中

日本眼科医会 役員（会長・副会長・常任理事・理事・監事）候補者として立候補いたしたく、届出いたします。

氏名(記名可) _____ (押印不要)

年 齢 _____ 歳 ※役員選任決議を行う代議員会開催時点の年齢

自宅住所 _____

所管眼科医会 _____ 都・道・府・県

略 歴 _____

別添2

日本眼科医会 役員選挙 「会長」候補者マニフェスト

候補者氏名(ふりがな)	
所管眼科医会	
所信	

 公益社団法人 日本眼科医会

※文字数制限なし。画像、図表不可。URL 記載等による外部ウェブサイトへの誘導不可。枠内自由記載、ただし、他人の名誉を傷つけ、善良な風俗を害し、その他品位を損なう文言を記載してはならず、虚偽の事項を記載し又は事実を歪曲して記載する等表現の自由を濫用して選挙の公正を害してはならない。(定款施行細則第20条) p. 1

別添3

日本眼科医会役員選挙 副会長・常任理事・理事・監事候補者マニフェスト

立候補する役職	副会長 ・ 常任理事 ・ 理事 ・ 監事
候補者氏名(ふりがな)	
所管眼科医会	
所信	

 公益社団法人 日本眼科医会

※候補者1名につき1ページ、文字数1,200字以内。画像、図表不可。URL 記載等による外部ウェブサイトへの誘導不可。枠内自由記載、ただし、他人の名誉を傷つけ、善良な風俗を害し、その他品位を損なう文言を記載してはならず、虚偽の事項を記載し又は事実を歪曲して記載する等表現の自由を濫用して選挙の公正を害してはならない。(定款施行細則第20条)

別添4

役員推薦届

届出日：西暦 年 月 日

公益社団法人日本眼科医会 役員選挙管理委員会 御中

日本眼科医会 役員（会長・副会長・常任理事・理事・監事）候補者として

_____ 氏を

推薦いたしたく、候補者の推薦承諾書を添えて届出いたします。

推薦者

氏名(記名可) _____ (押印不要)

所管眼科医会 _____ 都・道・府・県

別添5

推薦承諾書

届出日：西暦 年 月 日

公益社団法人日本眼科医会 役員選挙管理委員会 御中

日本眼科医会 役員（会長・副会長・常任理事・理事・監事）候補者として
推薦されることを承諾いたします。

候補者
氏名（記名可） _____（押印不要）

所管眼科医会 _____ 都・道・府・県

別添6

立候補辞退届

届出日：西暦 年 月 日

公益社団法人日本眼科医会 役員選挙管理委員会 御中

日本眼科医会 役員（会長・副会長・常任理事・理事・監事）候補者として
立候補いたしました。都合により辞退しますので、届出いたします。

立候補者
氏名（記名可） _____（押印不要）

別添7

推薦取下届

届出日：西暦 年 月 日

公益社団法人日本眼科医会 役員選挙管理委員会 御中

日本眼科医会 役員（会長・副会長・常任理事・理事・監事）候補者として

_____ 氏を

推薦いたしました。都合により取り下げます。

推薦者
氏名（記名可） _____（押印不要）